

「見立て」の日本と風土学

静岡県知事 川勝平太 × フランス国立社会科学高等研究院 教授 オギュスタン・ベルク氏 対談

世界文化遺産と認定された「富士山」にも現れている日本人の自然観は、これからますます求められる自然との調和・共生にどんなヒントを与えてくれるのか。西洋と日本の思想を踏まえて人間と自然の関係を探り、「風土学」を提唱した地理学者のオギュスタン・ベルク氏と、川勝平太・静岡県知事が語り合った。(対談日:2018年11月26日)

※対談の全文は『ベルク「風土学」とは何か』(2019年11月、藤原書店刊)に収録

静岡との縁

知事 コスマス国際賞の御受賞おめでとうございます。1990年に大阪で「国際花と緑の博覧会」(大阪花博)が開催され、その共生を記念して、花と緑に象徴される生命の惑星・地球と人間との共生と調和を目指して創設され、それに貢献した第一級の学者に授与されるものです。1993年に第1回の賞が出されます。先生は26回目のコスマス国際賞です。まことにおめでとうございました。

ベルク氏 ありがとうございます。また、このたびは静岡にお越しいただき、ありがとうございます。フランス人の弟子さんがこちらに住まわれていると聞きました。

知事 また、このたびは静岡にお越しいただき、ありがとうございます。今日は日本平から久能山東照宮にも行かれたとか。日本平の頂上に展望台「日本平夢テラス」が今年(2018年)オープンしました。

ベルク氏 ありがとうございます。また、このたびは静岡にお越しいただき、ありがとうございます。フランス人の弟子さんがこちらに住まわれていると聞きました。

知事 伊豆の土肥港から清水港まで駿河湾フェリーで結ばれています。1時間ほどの船旅ですが、船の通る海上の道は「県道223(ふじさん)」です。天気が良ければ、富士山を満喫できます。今日

知事 伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

ベルク氏 ええ、伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

ルがいい。畠山さんは漁師ですが、海が荒廃するのは山が荒れているせいだと知つて、河口に注ぐ大川の上流の山地で植林運動をなさっていたのですが、なかなか広まらなかつた。そんな中、上流の山の奥にお住まいの歌人・熊谷龍子さんを畠山さんが海にお誘いした。舟に乗せて、「あなたの住んでいるところはあの山のあたりです」と指さすと、感動した彼女は「森は海を海は森を恋いながら悠久よりの愛紡ぎゆく」という歌を詠んだ。それに心打たれた重篤さんは、その歌を入れこんだ本にした。歌の心がタイトルになったのが「森は海の恋人」です。あつという間に全国に広まり、畠山さんは一躍、京都大学教授にならなかった。いわゆる学歴社会の階段を上がっていった方ではなくて、漁師として一人前なんですね。カキの養殖のプロフェッショナルとして、知識と経験を説明する力は群を抜いています。

ベルク氏 そうです、私が後書きで書いたのは、これは本当に「生きられた風土学」であると行動的な風土学、やはり行動して風土そのものを生みます。そういう

は、見えましたか。

ベルク氏 ええ、少しは見えたんですけど、昨日の方がよく見ました。晴れでましたね。船そのものも富士という。

知事 そうです。船名は「富士」。駿河湾は「世界で最も美しい湾」に認定されています。県外では山梨県の人たちに特に人気で、富士川沿いに下つてこられて、清水港からフェリーに乗船し、船旅と伊豆半島を楽しめています。

今日は日本平から久能山東照宮にも行かれたとか。日本平の頂上に展望台「日本平夢テラス」が今年(2018年)オープンしました。

知事 ええ、伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

知事 伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

オギュスタン・ベルク氏

フランス国立社会科学高等研究院 教授



した。気づかれましたか。限研吾さんの設計です。

ベルク氏 絶景としか言えないです。あんな展望は、世界に一つしかないでしょう。

知事 お若いころから伊豆にございました。船名は「富士」。駿河湾は「世界で最も美しい湾」に認定されています。県外では山梨県の人たちに特に人気で、富士川沿いに下つてこられて、清水港からフェリーに乗船し、船旅と伊豆半島を楽しめています。

知事 ええ、伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

知事 伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

森は海の恋人

「森は海の恋人」は、私が初めて原文で読んだ日本語の短編小説でした。それでぜひ伊豆風景の画廊、「伊豆全体が一つの公園」と絶賛しています。

ベルク氏 「伊豆の踊子」は、私が初めて原文で読んだ日本語の短編小説でした。それでぜひ伊豆風景の画廊、「伊豆全体が一つの公園」と絶賛しています。

知事 先生は畠山重篤さんの「森は海の恋人」をフランス語に訳され、出版されるとお聞きしました。

ベルク氏 知事が解説を書かれました。3年前に彼に会つて、その本をいただいて、訳すのを約束しました。

知事 先生が文春文庫版を手にされました。それで、私と先生との縁も深まりました。

ベルク氏 和辻哲郎「風土」と西田幾多郎「場所」の哲学

知事 先生がこれまで訳された日本の本は何だったのですか。

ベルク氏 最初に和辻哲郎の「風土」を訳しました。それが最初の翻訳だったんです。その後で訳した山内得立の「ロゴスとレンマ」

に行かなければならぬと、昭和45年の春に伊豆を回り歩いていつたんです。

知事 昭和45年は1970年、そのとき先生は20代ですね。

ベルク氏 そうそう、あのころは27歳でした。

知事 お若いころから伊豆にございました。船名は「富士」。駿河湾は「世界で最も美しい湾」に認定されています。県外では山梨県の人たちに特に人気で、富士川沿いに下つてこられて、清水港からフェリーに乗船し、船旅と伊豆半島を楽しめています。

知事 ええ、伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

知事 伊豆の土肥よりちょっと南の方、大久保という所に住んでおります。

「見立て」の日本と風土学

ません。そもそも西田幾多郎は西洋の学者や哲学書をほとんど引用しません。

カントの形而上学批判は、ハイデッガーによつてもなされていません。ハイデッガーは「存在と時間(Sein und Zeit)」「実存の時間性」という観点からカントを批判しました。それと対比すれば、西田は「実在と場所」「実在の場所性」という観点からカントを批判したといえます。西田は場所の哲学を書物にし、同僚と話し、学生に講義しており、場所という概念は、相当深く京都学派に自覚されていたと思います。そのような環境下で、和辻哲郎は「風土」で、ハイデッガーの存在の時間性に対し、存在の空間性(Raum)を対峙させます。空間軸に立つて世界を了解するというのではなく、西田の場所の哲学を知つていれば、自然のなりゆきです。

ベルク氏 私は地理学をもとにした者ですけれども、人文地理学のフランス学派の親であるポール・ヴィダル・ドゥ・ラ・ブーラーシュが、地理学は場の学、場所の学(science des lieux)であり、人間の学ではなくと通態の原理そのものだと。

知事 見立ては、日本ではよく使います。落語を聞かれたことはありますか。

ベルク氏 いや、ありません。

知事 落語の寄席では漸家は座布団に座つて、手に持つのは扇子です。扇子は話によって、刀や銚子や盃など、様々な物に見立てられます。観客は扇子を見ていますが、落語家が扇子をお銚子と見立てば、扇子を眼前にしながら、それを銚子として見ている。寄席でなくとも、たとえば降る雪を散る花に見立てるとか、見立ては、様々な場面の日常生活でみられる日本人の認識方法です。特別ではなく、わかりやすい方法です。

どうして日本人のだれもが「見立て」という物の見方をするのかなと思うんですが、それはおそらく中国との関係で生まれたとも思います。たとえば瀟湘八景といふ、宋代の洞庭湖の八つの景色が非常に美しい。それが絵に描かれると、その絵を見た日本人が、日本でこれに当たるのは何かといふことになつて近江八景、金沢八景などになりました。今、眼前に富士山が見えますが、昔、例えば



フランス国立社会科学高等研究院 教授
オギュスタン・ベルク氏

ajectio[n]」と呼んでいます。その通態性はどう働くかと

いいますと、西田幾多郎の「述語の論理」と、アリストテレス以来の「主語の論理」とを合わせて、そ

の通態ができると考えるように

なりました。

風土と見立て

て場所の学である、と言つています。ですから私は、西田幾多郎が「場所」という言葉を使ったのを初めて聞いたときからぜひ読まなければならぬと思つたけれども、同時にあれは非常に難しいといわれていたから、長い間あって読まなかつたのです。

知事 西田哲学は日本人が読んでも難解です。

ベルク氏 何年か待つた後やつと読んだのですが、やはりご存じのようにその場所の論理は述語の論理と同義なものとして西田が使つていますが、生物にとって西田特に人間にとつて現実とは何であるかというと、純粹な客体でもなく、純粹な主体性の現れでもないけれど、ちょうどその間ぐら

いにある。私はそれを「通態(tr

語の論理も述語の論理も両方必要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」とし

て、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモー

ドです。けれども後になつて、やは

り「として見る」は、私に言わせる

ます。その通態性はどう働くかと

いいますと、西田幾多郎の「述語の論理」と、アリストテレス以来の「主語の論理」とを合わせて、そ

の通態ができると考えるように

なりました。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど

う花は「きれい」として、私が「う」として花は「きれいです。花は「きれい」として、「が一番大事なところなんだ

と思います。すなわちBとしてのA、あるいは非AとしてのA。そ

の両面が通態的に働いて現実が現れてくると風土が生まる。そ

れは、私の風土論の中心的なモードです。

知事 「見立て」は日本語で言

う「見立て」ですね。「見立て」と「見る」と。「見る」という「見立て」です。

ベルク氏 私は初めてその「見立て」を発見したのは中村良夫さん

の「風景学入門」という中公新書を読んだときでした。長い間、どう

う訳せいいかと。もちろんそれ

はそのまま、例えば近江八景と

かに通じるわけでもない。

知事 瀟湘八景が原型ですね。

私は初めてその「見立て」を立てる

たのです。

ベルク氏 学になるためには、主語の論理も述語の論理も両方必

要です。例えばこの花は私にとって、私にとって存在する。その「ど